

北海道地方における気候変動を踏まえた 治水対策技術検討会（第1回）を開催します

北海道開発局及び北海道は、平成28年に甚大な被害が生じた河川を対象とし、気候予測アンサンブルデータを活用^{*}して、気候変動を踏まえた適応策等を検討するため、「北海道地方における気候変動を踏まえた治水対策技術検討会」を開催します。

北海道地方においては、平成28年8月の大雨により甚大な被害が発生するなど、近年、洪水被害が頻発しています。頻発する洪水被害に対し、北海道開発局と北海道は連携して、現時点の科学技術として最新かつ最善と考えられる、これまでの気候及び今後予測される気候に係る気候予測アンサンブルデータを取りまとめ、気候変動に伴うリスク評価を進めてきたところです。

これらの検討を踏まえて、このたび、「北海道地方における気候変動を踏まえた治水対策技術検討会」を設置し、「気候予測アンサンブルデータを活用した適応策」及び「気候変動を踏まえた当面の治水適応策に係る目標設定の考え方」等に関する技術的な検討等を行うこととしましたのでお知らせします。

記

1. 開催日時

令和元年7月26日（金）15:00～17:00

2. 開催場所

北海道開発局研修センター 1階 会議室（札幌市東区北6条東12丁目）

3. 議事

別紙1のとおり

4. 委員

別紙2のとおり

5. 取材

- ・会議は非公開で行いますが、カメラ撮りは、会議冒頭のみ可能です。
- ・資料及び議事要旨は、後日、北海道開発局ホームページに掲載いたします。
- ・委員会終了後、委員長への取材時間を設ける予定です。

^{*}気候シミュレーションにより作成された大量の実験例（アンサンブル）を活用することにより、数千年分の気候データに基づいて災害につながる低頻度の自然現象の発生頻度を議論することが可能となります。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

建設部 河川計画課 河川計画管理官 武田 淳史（内線 5288）

流域治水専門官 岩井 真央（内線 5297）

企画係長 橋本 慎一（内線 5327）

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



北海道地方における気候変動を踏まえた 治水対策技術検討会（第1回）

議事次第

日時：令和元年7月26日（金）
15：00～17：00

場所：北海道開発局研修センター
1階 会議室

1. 開 会
2. 委員紹介
3. 委員長挨拶
4. 国際連合気候変動枠組みの定例会合への北海道における最新の気候変動取組事例の報告（紹介）
5. 議 事
 - （1）気候変動を踏まえたリスク評価について
 - （2）今後の検討について
 - （3）その他
6. 閉 会

北海道地方における気候変動を踏まえた治水対策技術検討会

委員

泉 典洋 北海道大学大学院工学研究院教授

加藤 孝明 東京大学生産技術研究所教授

社会科学研究所特任教授

志賀 永一 帯広畜産大学環境農学研究部門教授

清水 康行 北海道大学大学院工学研究院教授

関 克己 京都大学経営管理大学院客員教授

中北 英一 京都大学防災研究所教授

◎中津川 誠 室蘭工業大学大学院工学研究科教授

服部 敦 国土技術政策総合研究所水防災システム研究官

平井 康幸 寒地土木研究所水圏グループ長

山田 朋人 北海道大学大学院工学研究院准教授

渡邊 康玄 北見工業大学副学長 地域未来デザイン工学科教授

◎委員長
(敬称略、五十音順)

- 平成28年8月の連続台風による甚大な被害の発生を踏まえ、北海道開発局と北海道は連携し、気候変動の影響を最新の知見に基づき科学的に予測するとともに、水害に係るリスクの変化について検討を進めてきた。その結果、**北海道地方に関する数千年分に達する気候予測アンサンブルデータを得た。**
- その**気候予測アンサンブルデータを活用し、気候変動に備える治水適応策について検討**するため、「北海道地方における気候変動を踏まえた治水対策技術検討会」を設置し、北海道の水害に対する強靱化を図るとともに、北海道から新たな治水技術の発信を行う。

これまでの経過

- 平成28年8月、相次ぐ台風の襲来により、道東地方を中心に甚大な被害が発生
- ポテトチップの販売停止や野菜価格が高騰するなど被害は全国に波及

南富良野町幾寅地区



H28～

「平成28年8月北海道大雨激甚災害を踏まえた水防災対策検討委員会」

- 北海道から先導的に気候変動の適応策に取り組むべき。過去の降雨や水害等の記録だけでなく、気候変動による将来の影響を科学的に予測し、具体的なリスク評価をもとに治水対策を講じるべき。

H29～

「北海道地方における気候変動予測(水分野)技術検討委員会」

- 気候変動の影響(降雨量、洪水流量の変化)を最新の知見に基づき、科学的に予測しリスクの変化(規模・形態・頻度)をとりまとめ、社会と共有。
- 過去実験3,000年、将来実験5,400年のダウンスケーリングを実施することにより、災害をもたらす**極端現象を確率統計的に扱うことが可能**となった。

【国土交通省水管理・国土保全局】H30～

「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」

- 「気候変動を踏まえた治水計画の前提となる外力の設定手法」、**「気候変動を踏まえた治水計画に見直す手法」**等について検討。

治水対策技術検討会における検討事項

- 平成28年に甚大な被害が生じた十勝川、常呂川を対象とし、**気候予測アンサンブルデータを活用した適応策**に関する技術的検討
- さらに、**気候変動を踏まえた当面の治水適応策に係る目標設定の考え方**に関する技術的検討
- 住民視点からの水害に関する**リスク評価の高度化**

スケジュール

7/26：第1回検討会

年内：現地視察及び第2回検討会を開催

年度内：第3回検討会及び中間報告をとりまとめ

検討会委員

泉典洋（北海道大学大学院工学研究院教授）
加藤孝明（東京大学生産技術研究所教授・社会科学研究所特任教授）
志賀永一（帯広畜産大学環境農学研究部門教授）
清水康行（北海道大学大学院工学研究院教授）
関克己（京都大学経営管理大学院客員教授）
中北英一（京都大学防災研究所教授）
中津川誠（室蘭工業大学大学院工学研究科教授）【委員長】
服部敦（国土技術政策総合研究所水防災システム研究官）
平井康幸（寒地土木研究所水圏グループ長）
山田朋人（北海道大学大学院工学研究院准教授）
渡邊康玄（北見工業大学副学長 地域未来デザイン工学科教授）